

名古屋アイスロータリークラブ

RID2760 THE ROTARY CLUB OB NAGOYA IRIS

～ 世界へのプレゼントになろう Be a gift to the world ～

2015-16 年度国際ロータリー会長 K.R. “ラビ” ラビンドラン

例会日:毎週水曜日 13:00～14:00

例会場:ANA クラウンプラザ グランコートホテル名古屋

創立:2013年6月5日

会長:安井 忠 「楽しく・深く理解するアイリス」



・例会スケジュール

- 斉唱 それでこそロータリー
- 司会 加藤 晴美 会員
- 出席者報告 出席者数 30 名 / 会員数 37 名
出席率 81.08%

■ ビジター・ゲスト

なし

■ ニコボックス報告

安井 忠 会長

今日もいい天気になりました。青空とともに元気で
す。先日は三木さんに大変お世話になりました。

櫻井 孝充 会長エレクト

抜けるような青空に皆様すいこまれないようにして
ください。今日もアイリスの皆様にお逢い出来て小
生幸せに思っています。感謝。

安井 嗣博 会員

島村さんに騙されて本日卓話します。

■ 委員会報告

国際奉仕 青少年奉仕委員会

岩崎 幸弘 会員

- ・青少年奉仕委員会出席について
- ・インターアクト支援について

■ 幹事報告

島村 恵三 幹事

- ・3/30 6RC 合同例会について
守山 RC から令状
- ・熊本義援金について



■ 会長挨拶

企業にとってブランドとは何か。

それは命懸けで守り育てるものである。

1901年大分県に生まれた御手洗毅は蒲江町
(現・佐伯市)の初代町長だった父を早くに亡くして
いるが兄・信夫の助力もあり北海道大学医学部に進
み医師となっている。

病院勤務を経て1940年に御手洗産婦人科病院を
開業と医師として順調にキャリアを積んでいた
御手洗だが思わぬ転機が訪れた。

創設時(33年)から共同経営者として関わってきた
精機工学工業株式会社(現・キャノン)の最高責任
者・内田三郎が42年シンガポールに司政官として
赴任会社関係者から「このままでは社員が路頭に迷
います」と懇願された御手洗が社長に就任するこ
とになったのである。

戦争は御手洗から病院など多くの物を奪ったがそれ
が御手洗の覚悟につながった。

戦後間もなく御手洗は「カメラで必ずや世界を制覇する日がまいります」と社員の前で宣言社名を（キャノンカメラ）に変更した47年には「私どもはあのライカを念頭に置き『打倒ライカ』を標榜しながらやっております」とぶち上げている。

あまりにも遠大な目標だったが御手洗はキャノンの技術力に自信を持っていた。

事実50年に渡米した御手洗が持参した試作機についてアメリカの名門カメラメーカーベル・アンド・ハウエル社は「技術はライカより数等上である」と高く評価している。

一方でこれは（メイド・イン・オキュパイド・ジャパン）でありブランドをベル・アンド・ハウエルに変えるなら売ってやるとも言われている。

御手洗は即座にこう言って断った。

「やせても枯れても一国一城の主城を売り渡す事は出来ぬ」目先の利益よりも（自負）を選んだ。

やがて（ライカ越え）は現実の物となった。

52年発売の【IVSb】や社会現象まで巻き起こした【キャノネット】などを立て続けにヒットさせた御手洗の元にベル・アンド・ハウエルから「キャノン製品を我が社に売らせて頂きたい」と言う申し出があった。

あの時の（屈辱）から10年後の事であり日本はドイツ・アメリカと並ぶ三大カメラ生産国となっていた。敗戦の日「戦争で負けたけれども頭で負けたのではありません」として（頭で作った製品）の輸出を誓った御手洗の願いが成就する事になった。

私事で申し上げるならば私が昭和37年に立ち上げた電気板金業が昭和39年には12名の社員になっていました。

当時電気板金業は名古屋に10名以上の会社は1件しか無くその会社は30名位の社員を抱え名古屋の電気工事店からの注文は全てその会社が受注しておりました。

私の会社もアイリスの各員であります。

先々先代の川瀬電気の下請けとしてその他の会社の

受注は有りませんでした。

当時三菱電機・松下電工・東芝電気から下請けにならないか？とのお誘いを受けましたが私は大メーカーの下請けでドブプリつかりと身動きが出来なくなると全てお断りをしました。

そして川瀬電気様以外にも少しづつ手を延ばして行きました。

現在はその仕事が出て来ますと三菱も松下も東芝も我が社がメーカーとしてやりたい仕事だけ受注出来る様になっています。

キャノンの様な世界的な話だけでなく名古屋にも中小企業でこれだけ自負をした弥生プライマルがあると思っています。



■卓話

安井 嗣博 会員



小学校6年生の息子が通う学校の事なんですが、昨年、息子のクラスに非常に困った児童が複数おりました。授業は受けない、暴言、暴力、その相手は児童だけではなく担任にまで対象にした暴力で大変迷惑をしておりました。息子は正義感が強いのか、自分の友達が粗暴な3人に暴言を吐かれていると割って入り止めようとし、すると相手の3人は息子をタ

ーゲットにして暴言を吐く事が何度か有り、学校の先生も連中に手を焼き、「面倒だからお前があいつらに謝ってくれないか」と息子に先生が言う事もあったようです。もちろんその後のフォローも学校からあったのですが、残念な話でした。そんな教育現場の話は今は日本中に溢れていると思うのですが、こういった話を聞かされた時に私は一人の先生の存在を思い浮かべるのです。

私はある娘が小学生の時、縁あって私は PTA 役員になり、娘が六年の時に PTA 会長になりました。役員になる経緯は毎年違いがあるのですが、保護者の横のつながりで声を掛けられる事も多かったようですが、私は学校推薦で「通学している児童に問題行動がない、昼間に学校に来ることが出来る職業で、かつ反社会的勢力ではない」ということで推薦されたようです。今日は私が PTA を務めました 3 年間、その時の校長先生に関するお話をします。

この先生は「グローバル化の中の学校教育」という事に取り組み、本も数冊出されており、東大の講師を勤めた経験があり、現職は大学教育学部長という肩書きなので学者肌のような人に感じますが、現場たたき上げの小学校の教師出身です。

娘の学校に就任する以前の経歴は東京の小学校教員がスタートだそうです。その後アメリカの日本人学校中等部社会科教諭、そしてまた東京の小学校の教員。

娘が 3 年生に進級する時に娘の学校へ校長先生としてやってきました。実は娘が 1 年生の時、問題がクラスで発生します。クラス内で物が盗難されるといふ事件が毎日のように発生します。鉛筆、消しゴムなど文房具、ハンカチ。栽培する朝顔がちょん切られるといった事件も起きました。犯人は誰なのか状況証拠は揃っていましたが、学校はこれにうまく対応できないまま、ダミーだったと思いますが抑止のため小学校一年生の教室に監視カメラがつけられました。

そのまま 2 年に進級すると、一部の児童（その子の親は授業参観中にガムをかみ続けるという親でした）

によって 1 学年 2 クラスでしたが片側の 1 クラスに、いじめ、素行不良などが多数ありました。担任は 1 学期終了と同時に個人的な理由で退職し、2 学期から急遽外から招いた教員が担任する事になったのですが、これが大変酷い担任教員で、結果クラスは崩壊しました。当時の校長先生はとても児童思いのある良い先生で様々な手を打ってくださったのですが、想定外に 2 学期の終わりにまたも担任が突然学校を辞めてしまう事態になり、大混乱になりました。教頭先生が臨時担任を務めるなどの対応を行いながら、解決の姿は見えないまま三学期終了。保護者は憂鬱な気分のみで児童は 3 年に進級するのですが、その時に校長先生が変わりました。

最初に我々が気にしたことは誰をこの問題学年の担任にするのだろうか？ということでした。

校長先生の判断は多くの親には理解しがたいものでした。おっとりした優しい女の先生と男性教諭の中で一番柔らかい、怒る姿が創造出来ないイメージの先生の二人でした。こんな優しい二人で大丈夫か？もっとガツンとやってくれる先生じゃないと駄目じゃないか？そういう声の中、結果、なんと問題がなくなってしまったのです。これには驚きました。

後に先生に尋ねました。何故、あの二人だったのですか？確かに良い先生という評判です。しかし素人の我々には何故問題が収まってしまったのか、それを具体的に言葉で言えません。先生の答えは明確でした。

先生は「あの二人は子供の事を理解する能力があったからだ」といいました。赴任してすぐにその判断が出来て結果を出したことに驚きました。これがプロの教師なんだ。実はこの先生は東京では学級崩壊した現場を建て直すという経歴を持った先生だったのです。

校長先生が公立から数人の教員を引き抜いてきました。その中の一人の教員は過去に学級崩壊を立て直した際にタッグを組んだ女性の先生でした。恐ろしいほどの宿題を出し、徹底的なスパルタ教育、給食を食べ終わったら、そのまま遊び無しで小テストと

いう先生でした。親が気の毒に思うぐらいの宿題量で、中には夜中に日付が変わる時刻まで毎日泣きながら宿題をやる子もいたらしいのですが、この先生を嫌う児童は一人もいませんでした。学力が上がっただけでなく、宿題量をはるかに凌駕する児童一人ひとりを理解することが出来た先生だからです。

我々保護者も校長先生の行動、理想に共感し、月に4～5回は学校に顔を出し、他の保護者たち、先生たちと様々な活動しました。ボランティア精神だけの集まりですので保護者の職業、肩書きによる差別、区別は一切許さず、ただただ「どれだけ自分の子供の通う学校の価値を高めていくか」という場でした。校長先生と一緒に図書館の本を修繕、まずいと評判の給食の改善活動、ペットボトルロケットを親子で作成、新設された小学校校舎で一泊のキャンプという行事も有りました。子供や保護者にインターネット、とりわけLINEなどソーシャルネットワークへの接し方を学ぶ機会など、他の学校ではなかなか行なわれない事を専門家の保護者に手伝っていただき取り組むことができました。それも全て校長先生の理解と、校長先生の目指す方向に共感した保護者のボランティア精神、熱意が融合した結果です。

校長先生が学校に導入したものの一つはESDと呼ばれる物です。ESDとは「持続可能な開発のための教育」という意味で、簡単に説明すると世界中にある環境、貧困、人権、平和といった問題を自らの問題として捉え、自分の手の届く範囲から取り組む(think globally, act locally) ことにより、大きな問題の解決につながる価値観や行動を生み出し、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動の事です。

その一環で行われたのが「寄附教育」です。アフリカ大陸の西海岸側にブルキナファソという国がありますが、机や楽器などをブルキナファソへ寄附をし、相互交流と理解を進めました。また色んなNPO団体などが寄附をつのるプレゼンテーションを児童にし、名古屋フィルと児童の競演のチャリティーコンサートを名古屋市民会館で行い、その収益を児童たちに

どの団体に寄附させるか自ら考えさせるという取り組みが有りました。名古屋大学医学部で入院中の子供に付き添う家族のための滞在施設であるドナルドハウスへの寄附などを行なっていると聞いております。

さて、校長先生は現在は校長の職から離れ大学の教育学部長です。

先生は現在、大学の近所の団地で面白い取り組みをしています。プラレールやトミカといったおもちゃを団地の子供たちに渡して町を作らせませす。すると子供たちは自分たちの町の情景だけではなくもっと広い社会を作っていくそうです。小学校2年生で5年生の社会の授業レベルが出来てしまうとおっしゃっておいりました。

当クラブで名大医学部への寄附活動をしておりますが、「そういう場合は病院に長期入院している子供たちにプラレールやトミカを与えて少し導いてあげたら、病院の中から子供たちのイメージーションで広い社会を学んでくれるかもしれないね」という言葉が出てきました。与えるだけではなく、そこから何を一人ひとりが学んでいくかという点を提示した事で、改めてプロ教師を感じさせてくれました。

グローバルだけではローカルの人たちの文化を殺してしまう。ローカルだけだとグローバルの中で生きていけない。そこでグローバルとローカルの造語でグローバルという新しい概念が世界では生まれつつ有ります。私は決してよいロータリアンでは有りませんが、せめてこの小学生レベルのグローバルな意識には追いついていきたいと考えております。

ご清聴ありがとうございました。

以上